市政トピックス

■市が管理する公共施設のあり方　行政改革推進委員会が答申

市行政改革推進委員会（降旗富雄会長）は9月19日、本庁舎で「行財政改革の視点からの公共施設経営のあり方」について答申を宮澤市長に提出しました。

答申は本年8月の諮問に応えたもので、旧5町村から引き継ぎ、市が管理する公共施設について「分野ごとの公共施設における再配置の考え方」と「新たな公共施設を整備する際の留意点」の2点について意見をまとめています。

既存の公共施設の再配置については、市が施設を持つことの必要性などの観点から、教育や福祉などの分野ごとに施設の在り方を述べています。また、新たに公共施設を整備する際の留意点については、規模や数を増やさないことを前提に既存施設の活用や施設の複合化による経費削減について述べています。

市では委員会からの答申を踏まえながら公共施設の再配置について検討を進めます。

宮澤市長に答申内容を説明する降旗会長（写真右）

■移住・定住促進施策　3分野に分け提言

市移住・定住促進会議（会長・等々力賢治松本大学人間健康学部長・教授）は9月12日、本庁舎で「移住・定住促進施策に関する提言書」を宮澤市長に提出しました。

同会議では、少子化の中で市の人口を増やして発展していくため、移住・定住の促進に必要な施策について、昨年12月から検討してきました。

提言の内容は移住・定住を促進するための施策を「働く・稼ぐ」、「暮らす・癒す」、「育てる・学ぶ」の3分野に分け、対象となる移住・定住を希望する人ごとに具体的な促進施策について示し、また、すぐに取り組める施策と、中長期的な取り組みが必要な施策に分けて示しています。この他、施策の進捗状況を同会議が報告を受け、引き続き市へ提言することについても述べています。

今後、市では、提言を受け庁内会議で具体的な施策を検討し、早期に着手できる施策は、来年度から取り組みを始めます。

宮澤市長に提言書を提出する等々力会長（写真中央）

■公民館講堂部分が完成　明科総合支所・明科公民館全施設利用開始

明科総合支所と明科公民館の複合施設の第2期工事となる公民館講堂棟と駐車場の整備が終わり、完成式典が9月14日、新しい明科公民館講堂で行われました。式典には市関係者や市民など約300人が出席。宮澤市長は「防災拠点・避難所としての役割のほか、市民が気軽に集い、地域活動や市民と行政が共に響き合えるまちづくりの拠点施設になることを期待しています」とあいさつしました。

新しい講堂は、約300人を収容し、全体に防音が施され、音響や照明設備などを備えています。講堂棟の完成により、明科総合支所と明科公民館の全施設が利用できるようになりました。施設全体の建設工事費は約8億7500万円で、財源には合併特例債などを活用しています。

また、式典後は、明科地域の市民有志「明科いいまちつくろうかい!!」主催による完成記念イベントも行われ、明科音頭をはじめ、歌や踊りの披露、明科龍神太鼓の演奏、赤飯などが振る舞われ、施設の完成を祝いました。

完成した講堂棟の内部（右）市民有志による完成イベント（左）

■大展示室などの機能を充実　豊科近代美術館の増築部分が完成

豊科近代美術館の増築工事が終わり9月14日、しゅん工式典が増築した大展示室で行われました。式典には関係者約100人が出席。宮澤市長は「美術館が市の文化活動の拠点となり、市民が集い、活気に満ちた魅力的なまちづくりが進むと信じています」とあいさつしました。

今回、増築した建物は、美術館東側に位置し、鉄骨2階建て、延べ床面積約706平方㍍、「大展示室」「収蔵庫」のほか、作品運搬車の車寄せや運搬用エレベーターを整備しました。工事費は約2億4000万円で、財源には合併特例債などを活用しています。

市文化振興計画では、豊科近代美術館を市の文化活動の拠点となる基幹美術館と位置付けており、施設の完成により、現在、市の各施設に分散している美術品などを集約が可能となったほか、これまで展示できなかった作品も展示可能となり、基幹美術館に必要な機能が備わりました。

この日は市内出身で江戸時代の狩野派の画家・狩野梅玄（かのうばいげん）と大正時代に活躍した画家・井口香山（いぐちこうざん）の屏風（びょうぶ）が大展示室のガラスケースに展示披露されました。

完成した大展示室のガラスケースで披露された市内出身画家の屏風